

姉妹都市交流

石川県内灘町でさらに深まる友好の絆

昭和55年の姉妹都市提携から30年が経過していますが、今年度は羽幌町から内灘町へ出かけ、交流、友好の絆をさらに深める事業が続いています。



内灘町DETA

内灘町は人口26,892人(H24年5月末)、金沢市の北隣の町です。明治20年頃、捕鯨やニシン漁のために内灘町からの漁業者が羽幌に寄港したのが結びつきのはじまり。これまで、行政間や文化、スポーツなどの様々な交流が行われています。

羽幌町無形文化財に指定されている「加賀獅子」は、大正末期頃に加賀出身者(内灘町出身者)が獅子一式を購入し、ふるさとの獅子舞を再現したのが始まりと言われています。

6月29日～7月6日

「羽幌町PR事業in内灘町」

—— 医師対策の活動も ——

内灘町で羽幌町をPRするはじめての事業として内灘町文化会館と金沢医科大学病院の2会場で開催。羽幌町を訪れたり、羽幌町の特産品を購入いただけるよう、舟橋町長はじめ町職員がPR活動を展開しました。

また、内灘町には金沢医科大学があることから、不足する医師や看護師の誘致を呼びかけることも開催

の目的のひとつです。

前半の内灘町文化会館では来場者は延べ250名。多くの方々に感心を持っていただきました。

後半は金沢医科大学病院で開催。特産品の紹介として焼尻めん羊を炭火焼で試食提供し大好評でした。

羽幌町への医師赴任にむけたPR活動として、大学関係者、医療従事者や学生にむけて「はぼろタウンプロジェクト」も開催。羽幌町の概要と町の医療の現状を訴え、医師

研究資金制度等の医療施策なども説明しました。

これらの様子は、地元新聞にも取り上げられ紹介されました。

7月28日

内灘町民夏まつりに出店参加

内灘町総合グラウンドで開催の大きなイベント内灘町民夏まつりにも出店。羽幌から町職員3名が現地で水産加工品の紹介と焼尻めん羊の試食会を実施し、羽幌町をPR

しました。大賑わいとなった会場で羽幌の味覚も大きな反響がありました。

7月29日～30日

ミニバスケットのメンバーは交歓試合へ

子どもたちも毎年相互交流しています。今年は、石川教育長を団長として、ミニバスケットボールクラブの小学5、6年生17名と指導者や保護者25名が内灘町を訪問。合同練習や交歓試合で交流を深めました。



内灘町文化会館ロビーでのPR事業



金沢医科大学病院で「はぼろタウンプロジェクト」



舟橋町長が学生達に羽幌をPR。八十出内灘町長も同行 写真は「北國新聞」(金沢市本社)提供



「北國新聞」(左)と「北陸中日新聞」(右)の掲載記事



内灘町民夏まつりに出店、羽幌をPR



ミニバスケット内灘町での合同練習と交歓試合